

独立行政法人日本学術振興会の平成30年度における業務の実績に関する評価 主務大臣による評価（案）一覧

資料1

評価項目（平成30年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
1 総合的事項	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 引き続き、評議員会等を活用して、より一層研究者の知見を取り入れるとともに、エビデンスに基づいて分析・検証し、業務運営状況を改善していくことを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>
(1) 研究者等の意見を取り入れた業務運営	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>
(2) 第一線級の研究者の配置による審査・評価機能の強化	a	a	a	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 全ての学問領域をカバーするとともに、組織形態や地域・男女比バランスにも配慮した体制整備を行うことにより、多種多様な第一線級の研究者の知見を取り入れている点は評価できる。 また、平成30年3月に設置された科研費改革タスクフォースにおいて、科研費の応募件数増加の実態と要因を探るとともに、審査システム改革2018の検証を行い、審査負担の軽減を含む科研費制度の更なる改善に関する検討を行ったこと、また、検討結果を「科研費改革推進タスクフォースにおける議論のまとめ」として報告を行ったことも評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; 日本の学術界における女性比率の向上の観点から、学術システム研究センターのように幅広い研究分野の研究者を要する組織においては、新規研究員の任用に際し、研究者としての実力に加え、より積極的に女性を任用することを強く意識して進めることが望まれる。 科学研究費助成事業において約7,000名の審査員による約10万件の審査自体が、我が国の研究状況を分析できる最大かつ最先端の場でもある。第一線級の研究者による審査システム改革2018の検証作業を継続して行い、今回の改革の理念がさらに浸透するよう不断の努力を期待する。</p>
(3) 学術研究の多様性の確保等	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 引き続き、エビデンスに基づいて分析・検証し、業務運営状況を改善していくことを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; 学術研究の多様性の確保は一過性の方策で実現できるものではないため、引き続き、様々な課題に対して深層から解析することにより、変化に対応しつつ、普遍性を確保していくことを期待する。</p>

評価項目（平成30年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
2 世界レベルの多様な知の創造	A	A	A	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt;            科研費事業の充実・強化に資する取組として下記取組を講じている点が評価できる。            ・科研費事業において応募研究課題数が年々増加しているにもかかわらず、スケジュールどおり応募・審査・交付業務を円滑に実施していること            ・審査員1人当たりの審査件数を低減するなど、審査員の負担を軽減する取組            ・同一の研究課題の審査を行っている他の審査員と大きく異なる評価をしているケースなどについて、評定の適切性について検討するなど、公正な審査が行われるための改善策            ・研究者が海外渡航により研究を断念することがないように、海外渡航時における科研費の中断・再開を認めるなど、研究者の利便性の向上を図る取組            ・研究終了後の公開情報の更なる充実に向け、研究成果報告書などの様式を見直すなど、国民の理解促進に資するための取組</p> <p>研究の国際化と国際的な共同研究等の推進に資する取組として、下記取組を講じている点が評価できる。            ・国際共同研究事業において、リードエージェンシー方式による審査を試行的に導入し、当初の想定を大幅に超えた申請について、期日までに審査を完了するなど、国際共同研究のさらなる推進が期待される取組</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;            科研費の応募研究課題数が年々増加している中、審査に係る負担軽減を図るとともに、質的發展を目指して不断の見直しを継続することを期待する。            また、戦略的に重要な諸外国との覚書に基づく交流を、引き続き着実に実施していくことを期待する。            さらに、課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業について、終了した研究テーマは、先導的な共同研究事例として積極的に研究者等に成果発信していく必要があることから、引き続きホームページへの掲載やセミナー・シンポジウムの開催等により、情報発信に取り組んでほしい。            また、人文学・社会科学分野のサイクルタイム、研究開始から結論を導き、その結果をフィードバックして検証していくための時間が非常に長いので、無理に短時間で評価を出そうとするのではなく、人文学・社会科学の特性を踏まえた評価システムを確立することを期待する。            あわせて、人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業については、拠点機関及び国立情報学研究所と緊密に連携し、より幅広い分野横断的なデータカタログの整備、データ寄託を円滑に推進するためのガイドラインの策定などのデータ利用環境の向上に資する取組を実施することで、人文学・社会科学におけるデータの共有・利用を促進させることを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt;            科研費電子申請システム（審査システム）とresearchmap及び科学研究費助成事業データベース（KAKEN）との連携機能強化、研究分担者承諾手続きの電子化、海外渡航時における科研費の中断・再開制度の平成31年度からの導入などの制度改革は、研究者の立場に立ったサービスを提供するもので評価できる。            科学研究費助成事業データベース（KAKEN）は、科学ジャーナリストなど、研究情報を探す側にとっても有用である。            試行的に開始されたリードエージェンシー方式による審査により、どのようなメリット・デメリットがあったかも検証しつつ、本格的な実施を進めてほしい。            人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業については、我が国の学術研究において重要な意味をもつと考えられるので、利用促進を図るための方策など、具体的な取組が行われることを期待する。特に、当該事業の認知度を高めるための工夫を検討してほしい。</p>

評価項目（平成30年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
<p>(1) 科学研究費助成事業の充実・強化に資する取組の推進</p>	S	S	S	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt;          評価すべき実績の欄に示す通り、中期計画に定められた以上の業務の顕著な進捗が認められるため。</p> <p>①審査・評価の充実          科研費の公募・審査業務においては、応募研究課題数が年々増加し、特に基盤研究(C)においては前年度比8%の増加がみられた中、計画通りのスケジュールで交付内定通知を出しており、極めて迅速かつ円滑・適切に審査業務が実施されたと認められる。また、学術システム研究センターを中心に設置した「科研費改革推進タスクフォース」において、応募件数の増加への対応について検討を行い、平成31年度科研費(平成30年9月公募)の審査より、審査委員1人当たりの審査件数の上限を低減するなど、審査員の負担を軽減する取組が積極的に講じられていることは高く評価できる。</p> <p>審査にあたって、平成29年度科研費の審査から引き続き、審査の手引並びに説明会において、審査に当たった姿勢を説明するなどピアレビューによる科研費の審査がより健全に機能するよう努めており、そうした取組が、新たに導入した総合審査、2段階書面審査において、他の審査委員の評価結果を参考に再評価する仕組みを機能させることにつながっていると認められる。</p> <p>また、同一の研究課題の審査を行っている他の審査委員と大きく異なる評価をしているケースなどについて、評点の適切性について検討するなど、公正な審査が行われるための改善策を積極的に講じていると認められる。</p> <p>評価業務については、中期計画に定められた取組を着実に実施していると認められる。</p> <p>②助成業務の円滑な実施          募集事業(公募)においては、例年英語版の公募要領等は日本語版より2~3週間遅れて公表していたが、平成30年度においては研究計画調書の様式等について日本語版と同日に公表するなど、外国人研究者の利便性向上を図るための取組を着実に実施していると認められる。また、平成31年度科研費の審査(平成30年9月公募)においては、科研費電子申請システム(審査システム)にresearch map及び科学研究費助成事業データベース(KAKEN)との連携機能を設けることで審査の利便性を向上させる取組を進めたことと認められる。</p> <p>また、交付業務においては、応募研究課題数が年々増加しているにもかかわらず、ほぼ全ての採択課題について4月1日に交付内定を通知するなど、募集業務・交付業務を円滑に実施していることは高く評価できる。</p> <p>加えて、研究者が海外渡航により研究を断念することがないよう、海外渡航時における科研費の中断・再開を認めるための制度改善を図り、平成31年度からの導入に向けて、あらかじめ研究者に周知を行うことで研究活動の活性化に資する取組を行ったと認められる。</p> <p>③研究成果の適切な把握          研究成果の把握・公表については、平成30年度におけるKAKENからの研究成果報告書のダウンロード数が前年度比約1.7倍の約235万回と大幅に増えたことは、科研費における研究成果に対する社会の関心の高さを示していると考えられるが、平成29年度に終了した研究課題の研究成果報告書等をKAKENにおいて着実に公開することで、研究成果について把握するとともに社会還元を行ったと認められる。また、研究終了後の公開情報の更なる充実に向け、研究成果報告書などの様式を見直すなど、研究の概要やその学術的価値などについて国民の理解促進に資するための取組を行ったと認められる。</p> <p>さらに、「オープンアクセス化」について公募要領で周知するとともに、実績報告書に記載する科研費論文についてはオープンアクセス化の状況についても併せて報告を受けるなど、世界的な動向を踏まえた対応を行っていることと認められる。</p> <p>広報誌等については、科学コミュニケーターを起用し、研究成果をわかりやすく紹介するとともに、執筆研究者の連絡先を併記するなどホームページ等での公開方法を工夫し、継続的な情報発信、広報普及活動を行ったと認められる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt;          平成30年度科研費(平成29年9月公募)から適用した新たな審査システムについて、すでに検証作業に着手し更なる改善に努めるなど、科研費改革の着実な実施に向けた取組が認められる。応募研究課題数が年々増加している中、審査に係る負担軽減を図るとともに、質的發展を目指して不断の見直しを継続することを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt;          審査システムの大きな改革である審査区分と審査方式の見直しについて、その効果等は短期間では評価しえないものであるため、今後、しかるべき時期に今回の改革による評価・検証を行うことを期待する。</p>

評価項目（平成30年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
(2) 研究の国際化と国際的な共同研究等の推進	a	a	a	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 国際共同研究事業において、リードエージェンシー方式による審査を試行的に導入し、特に、英国との国際共同研究プログラムでは、当初の想定を大幅に超えた申請があったが、英国側に柔軟に協力して無事に審査を終えるよう努力し、期日までに審査を完了したことは高く評価できる。また、これらの取組により、他の主要国学術振興機関との国際共同研究のさらなる推進も期待され、実際に中国や欧州と新しい共同研究の枠組みが構築されつつあることから、学術研究活動のグローバルな展開に対応するとともに、共同研究支援のネットワークを一層推進するものとして、高く評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 戦略的に重要な諸外国との覚書に基づく交流を、引き続き着実に実施していくこと。</p> <p>&lt;その他事項&gt; 主要国学術振興機関との国際共同研究事業が、着実に進展していると確認できた。このような活動の成果は目に見える形では表れにくいいため、成果を可視化するための工夫を期待する。</p>
(3) 学術の応用に関する研究等の実施	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業については、様々な学術的・社会的要請を踏まえて課題を設定して、共同研究を推進した。終了した研究テーマは、先導的な共同研究事例として積極的に研究者等に成果発信していく必要があることから、引き続きホームページへの掲載やセミナー・シンポジウムの開催等により、情報発信に取り組んでほしい。また、人文学・社会科学分野のサイクルタイム、研究開始から結論を導き、その結果をフィードバックして検証していくための時間が非常に長いので、無理に短期間で評価を出そうとするのではなく、人文学・社会科学の特性を踏まえた評価システムを確立することを期待する。</p> <p>人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業については、拠点機関及び国立情報学研究所と緊密に連携し、より幅広い分野横断的なデータカタログの整備、データ寄託を円滑に推進するためのガイドラインの策定などのデータ利用環境の向上に資する取組を実施することで、人文学・社会科学におけるデータの共有・利用を促進させることを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; 人文学・社会科学データインフラストラクチャー構築推進事業については、日本の学術研究において重要な意味をもつと考えられるので、利用促進を図るための方策など、具体的な取組が行われることを期待する。特に、当該事業の認知度を高めるための工夫を検討してほしい。</p>
3 知の開拓に挑戦する次世代の研究者の養成	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 限られたスケジュールの中で、業務を着実に実施するとともに、研究者のニーズを踏まえて更なる制度改善を実施している点は評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 特別研究員事業を中心とする人材育成事業について、人材育成企画委員会における議論等を踏まえ、引き続き制度改善に取り組んでほしい。若手研究者が自立して研究に専念できるよう、引き続き、研究者のニーズを踏まえた更なる制度改善に努めることを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; 特別研究員事業において、採用見込証明書発行時期を早期化したほか、自治体の保育所申請担当者等に向けて特別研究員制度についての説明文書を作成するなど、行政サービスの利用しやすさに向けた取組についても評価できる。</p>

評価項目（平成30年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
(1) 自立して研究に専念できる環境の確保	a	a	a	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; ・限られたスケジュールの中で、業務を着実に実施しつつ、PD申請時における研究機関移動要件の簡素化、採用見込証明書発行時期の早期化等を実現し、優秀な若手研究者の確保に資する改善を実施した。 ・2019年度の新規事業である「特別研究員－CPD(国際競争力強化研究員事業)」について、予算編成後の限られた期間で、2019年度から採用・海外派遣できる仕組みを構築し、募集要項作成等の準備を推進した。 ・3-1及び3-2の評価指標が中期目標に定められた水準を大きく上回る成果が得られている。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; ・特別研究員事業を中心とする人材育成事業について、人材育成企画委員会における議論等を踏まえ、引き続き制度改善に取り組んでほしい。 ・採用活動のルールの見直しが進んでいることを踏まえ、博士号取得者の増加の施策としてもより有効な事業となるよう、状況に応じた運用改善等について継続的な工夫に期待したい。</p> <p>&lt;その他事項&gt; 次世代研究者の養成において、特別研究員事業の役割は大きいと認め、同事業が着実に運営されていることは評価できる。引き続き、同事業の量的・質的発展を期待する。 また、採用見込証明書発行時期を早期化したほか、自治体の保育所申請担当者等に向けて特別研究員制度についての説明文書を作成するなど、行政サービスの利用しやすさに配慮した取組についても評価できる。今後も現場からの要望を反映した制度改善が重要である。</p>
(2) 国際舞台で活躍する研究者の養成	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 若手研究者育成のための海外派遣について、引き続き着実に実施していくこと。</p> <p>&lt;その他事項&gt; 海外特別研究員事業において、申請時において常勤・非常勤の別を問わないこととしたり、若手研究者海外挑戦プログラムの募集を従来の年1回から年2回に増やすなど、門戸を広げる工夫をしている点も評価できる。</p>
(3) 研究者の顕彰・研さん機会の提供	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; 本項目における一連の事業は、優れた若手研究者の研究能力を認め、当該研究者のさらなる発展に寄与していると認められる。</p>

評価項目（平成30年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
(4) 研究者のキャリアパスの提示	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 卓越研究員事業における審査業務・交付業務について、中立的な公的機関として着実に実施している点は評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 事業の実施状況等を踏まえ、文部科学省と協議の上、審査基準や審査方法の改善等、事業の改善に向けた継続的な検討が必要である。</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>
4 大学等の強みを生かした教育研究機能の強化	A	A	A	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 各プログラムに専門家による委員会等を設置し、公正な審査・評価に努め、審査・評価業務をすべて滞りなく実施できた点は評価できる。</p> <p>また、大学教育改革の支援に資する取組として下記取組を講じている点が評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・卓越大学院プログラムにおいて、委員へのアンケート等により課題を抽出するなど、今後の高等教育政策も見据えた事業改善への取組</li> </ul> <p>さらに、大学のグローバル化の支援に資する取組として下記取組を講じている点が評価できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・スーパーグローバル大学創成支援事業において、構想的な発展的な見直しに関する審査事務を適切に行ったこと</li> <li>・世界展開力強化事業において、初めて、海外交流相手側機関との公募及び英語による審査を共同で実施するに当たり、綿密な連絡調整を行い、事業が円滑に実施されるよう努めたこと</li> </ul> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; アウトリーチ活動等について、実施した工夫の効果を適切に評価し改善に努めることを期待する。</p> <p>博士課程教育リーディングプログラムについては国の事業支援期間が令和元年度で終了することから、各大学の取組成果の定着、発展及び我が国全体の大学院への波及も見据え、令和元年度は事後評価の着実な実施等審査・評価業務の総括に努めてほしい。</p> <p>また、大学教育再生加速プログラム及び地(知)の拠点大学による地方創生推進事業は、令和元年度に国から各大学等に対する事業支援期間が終了することから、最終年度に向けて適切に各取組のフォローアップを行うと共に、令和2年度に行う事後評価の着実な実施に向け、必要な体制を確保してほしい。</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>
(1) 世界最高水準の研究拠点の形成促進	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 総合支援事業のアウトリーチ活動等について、十分に成果を得られていない取組もある。改善と発展のためには、実施した工夫の効果を適切に評価し、それに基づいて取組を改善していくことが重要である。</p> <p>&lt;その他事項&gt; 研究拠点形成に係る評価にあたっては、適切な評価指標の設定に留意することが重要である。</p>

評価項目（平成30年度）	自己 点検評価 （法人）	外部評価 （法人）	大臣評価 （案）	主務大臣による評価（案）
(2) 大学教育改革の支援	a	a	a	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 多数の大型事業を円滑に推進し、採択後のフォローアップや評価も適切に行われている。 国の定めた制度・方針を踏まえ、迅速に事務体制を整えながら、事業ごとに専門家による委員会等を設置した。このことにより、透明性、信頼性、継続性を確保した公正な審査・評価体制が整備でき、各事業における審査・評価業務をすべて滞りなく実施できた点は評価できる。 卓越大学院プログラムについては、審査・評価の着実な実施に留まらず、委員へのアンケート等により課題を抽出するなど、今後の高等教育政策も見据えた事業の改善に積極的に貢献したことは高く評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 博士課程教育リーディングプログラムは国の事業支援期間が令和元年度で終了することから、各大学の取組成果の定着、発展及び我が国全体の大学院への波及も見据え、令和元年度は事後評価の着実な実施等審査・評価業務の総括に努めてほしい。 また、大学教育再生加速プログラム及び地(知)の拠点大学による地方創生推進事業は、令和元年度に国から各大学等に対する事業支援期間が終了することから、最終年度に向けて適切に各取組のフォローアップを行うと共に、令和2年度に行う事後評価の着実な実施に向け、必要な体制を確保してほしい。</p> <p>&lt;その他事項&gt; 事業のフォローアップのための現地視察について、課題がある事業だけでなく、好事例となる事業についても現地視察を行い、そこで得られた事例を各大学に普及させた取組は評価できる。参考となる事例を示すことは、事業全体の水準を上げることにもつながるため重要である。</p>
(3) 大学のグローバル化の支援	a	a	a	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 大学のグローバル化を支援する国の助成事業について、委員会や部会等を開催し、審査・評価業務に従事している。 特に、スーパーグローバル大学創成支援事業については、構想の発展的な見直しに関する審査事務を適切に行ったことは評価できる。 また、世界展開力強化事業においては、初めて、海外交流相手側機関との公募・英語による審査を共同で実施するに当たり、文部科学省との連携により相手側機関との間で綿密な連絡調整を行っており、高く評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; 個々の大学の特性や強みを生かしつつ、大学改革等により徹底した国際化を進めるスーパーグローバル大学創成支援事業においては、各大学の実情に応じた柔軟な対応が求められると思われるが、事業開始後に生じた学内外の状況や計画の進捗を踏まえた発展的な構想の見直しが行われたと認められる。</p>
5 強固な国際研究基盤の構築	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 会議の議論、取りまとめ等において、我が国のプレゼンスを高めるよう引き続き戦略性を持って参加するよう努めてほしい。 各国同窓会の活動支援や研究者のソーシャルネットワークサービスであるJSPS-Netを通して登録者への情報提供を行っており、更なるネットワークの構築と強化に期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>

評価項目（平成30年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
（１）事業の国際化と戦略的展開	b	a	a	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 評価すべき実績の欄に示すとおり、中期計画に定められた以上の業務の進捗が認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 新たに国際統括本部が設置され、国際事業全般を俯瞰する仕組みが構築されたことによって、戦略的な国際共同研究のあり方や外国人招へい事業の更なる発展を見据え、総合的な視点から国際戦略の案が固まってきた。国際事業がより充実したものとなることが期待される。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; 学術情報分析センターや海外研究連絡センターにおける学術情報の収集・分析を踏まえて、国際学術情報の一体的な分析を行い、JSPSの国際的な取組の効率化と強化につながることを期待する。</p>
（２）諸外国の学術振興機関との協働	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>
（３）在外研究者コミュニティの形成と協働	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; 振興会事業経験者による海外の同窓会ネットワークや在外研究者コミュニティの形成は、長期的視野で継続的に実施する必要がある。引き続き、それらが適切に維持されることを期待する。</p>
（４）海外研究連絡センター等の展開	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; 諸外国でのシンポジウムを通して、日本の学術情報を発信することは重要であり、新たな国際共同研究につなげられるよう期待する。</p>

評価項目（平成30年度）	自己点検評価（法人）	外部評価（法人）	大臣評価（案）	主務大臣による評価（案）
6 総合的な学術情報分析基盤の構築	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 学術情報分析センターにおける分析が、振興会内でどのように活用されているか、各事業にどのようにフィードバックされているのかを具体的に示しつつ、引き続き、振興会が保有するデータ等を有効に活用されることを期待する。</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>
(1) 情報の一元的な集積・管理	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>
(2) 総合的な学術情報分析の推進	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>
(3) 学術動向に関する調査研究の推進	b	b	b	<p>&lt;補助評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; 揺籃期にある学術分野等の最新動向に関する調査等においては、適切な情報公開と他分野を含む研究者からのフィードバックが重要であると考えられる。調査等の結果を活用し、振興会事業の改善・発展につなげることを期待する。</p>
7 横断的事項	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 各公募事業の応募・審査・交付業務において、手続きの電子化を図る等、利用者（研究者、事務担当者）の負担軽減に資する改善が図られていることは評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 一部のパンフレット等については、効果的な発行時期について検討する必要がある。また、ホームページへのアクセス数は増加しているが、よりわかりやすく、見やすいホームページを目指し、不断の改善を図る必要がある。</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>

評価項目（平成30年度）	自己 点検評価 （法人）	外部評価 （法人）	大臣評価 （案）	主務大臣による評価（案）
（１）電子申請等の推進	b	b	b	<p>&lt;補助評価に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 各公募事業の応募・審査・交付業務において、手続きの電子化を図る等、利用者（研究者、事務担当者）の負担軽減に資する改善が図られていることは評価できる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>
（２）情報発信の充実	b	b	b	<p>&lt;補助評価に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; 「ひらめき☆ときめきサイエンス」は、研究者が科学研究費助成事業の研究成果を分かりやすく説明することなどを通じて、学術と日常生活との関わり等に対する理解を深める機会を積極的に提供する取組であり、平成30年度は全国152機関で278プログラムが開催されるなど、着実な実施が認められる。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 一部のパンフレット等については、効果的な発行時期について検討する必要がある。また、ホームページへのアクセス数が増加しているが、よりわかりやすい・見やすいホームページを目指し、不断の改善を図る必要がある。</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>
（３）学術の社会的連携・協力の推進	b	b	b	<p>&lt;補助評価に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; 各委員会は産業界との情報交換の場として一定の役割を果たしていると考えられる。</p>
（４）研究公正の推進	b	b	b	<p>&lt;補助評価に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; 引き続き、研究不正防止に向けた取組を継続する必要がある。</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>
（５）業務の点検・評価の推進	b	b	b	<p>&lt;補助評価に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題・指摘事項&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>

評価項目（平成30年度）	自己 点検評価 （法人）	外部評価 （法人）	大臣評価 （案）	主務大臣による評価（案）
II 業務運営の効率化に関する事項	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;評価すべき実績&gt; -</p> <p>&lt;今後の課題&gt; -</p> <p>&lt;その他の事項&gt; 調達等の合理化について、公正性を保ちながら効率化を図った実績は評価できる。</p>
1 組織の編成及び業務運営				
2 一般管理費等の効率化				
3 調達等の合理化				
4 業務・システムの合理化・効率化				
III 財務内容の改善に関する事項	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; -</p>
IV その他業務運営に関する重要事項	B	B	B	<p>&lt;評定に至った理由&gt; 中期計画に定められたとおり、概ね着実に業務が実施されたと認められるため。</p> <p>&lt;今後の課題&gt; -</p> <p>&lt;その他事項&gt; 情報セキュリティに関して念入りな対策を講じており、評価できる。今後も油断することなく、情報インシデントゼロを目指してほしい。</p>
1 内部統制の充実・強化				
2 情報セキュリティへの対応				
3 施設・設備				
4 人事				